# 愛知東邦大学 シラバス

| 開講年度(Year) | 2023年度 | 開講期(Semester) | 後期 |
|---|---|---|---|
| 授業科目名(Course name) | EMEA研究 | | |
| 担当者(Instructors) | 舩木 恵一 | 配当年次(Dividend year) | 3 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 選択 |

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この講義では、我が国を取り巻く国際環境の理解を目的として、地政学・文化人類学・歴史などの複眼的な視点から、EMEA（ヨーロッパ、中東及びアフリカ）地域の研究を行います。地域の特性（地理風土や文化・宗教・資源）の理解、民族移動や交易・紛争がもたらした影響、主要な世界帝国の興亡などを通じて、今日の国際情勢に至るプロセスと構造の理解を深めます。さらに知っておくべきグローバルな時事的テーマに繋がる背景を関連的に学習し、広く国際社会全般への見識を深めると同時に、個人として何を考え・学ぶべきかという主体性を育み、学士力の基礎となる思考力・判断力・表現力の獲得や強化を目指します。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

| 授業形態(Class form) | 講義 |
|---|---|
| 授業の方法(Class method) | 対面方式での講義を実施します。主要なテーマ（キーワード）を設定し、それに関する情報、背景分析などをスライドや動画を用いて解説します。また一方的な講義とせず、随時アクティブラーニング方式を取り入れ、学生による①グループディスカッション、②リサーチ＆レポート、③ディベート、④プレゼンテーションなどを組み合わせます。学生はアクティブラーニングに参加すること、課される課題に取り組むことによって、復習：予習を行い、テーマ（問い）に関して深い理解をすすめ、主体的な思考のもとに、自身の意見を表現する力を伸ばします。 |

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
|---|---|---|---|
| 第1回 | オリエンテーション～学習目的と講義方法の確認<br>EMEAとはどこの地域か | 講師略歴紹介、本講義の狙いと対象範囲、学生の到達目標、各回のテーマ、課題やアクティブラーニングへの取組、成績評価方法を説明します<br>学生は個人の研究テーマを設定します | □ |
| 第2回 | 中東A　古代オリエント世界はどんな世界？　古代の中東にはどのような民族・文化・技術が存在したのか？ | 文明や文化発祥の地、メソポタミア文明、ペルシャやオスマン帝国の興亡、世界宗教やアルファベット発祥の地を知る（手法②） | □ |
| 第3回 | 中東B　イスラム教はどう生まれ、何故瞬く間に世界に広まったのか？　何故テロが生まれるのか？ | アラビアンナイト世界の成立、イスラム教の特徴や問題、現代社会への影響を考える（手法①） | □ |
| 第4回 | 中東C　イスラエルvsアラブ　なぜ争いは終わらないのか？　中東が世界の火薬庫と呼ばれる理由は？ | ユダヤ迫害の歴史、数千年に渡る民族・宗教紛争の争いの経緯、紛争の構造（アメリカや欧州の関わり）（手法③） | □ |
| 第5回 | 中東D　世界のエネルギー資源の重要な供給地であり、ヨーロッパとアジアを結ぶ貿易の要衝地、中東世界はどこへ向かうのか？ | OPEC誕生（オイルビジネス国家の成立）、アラブの春（民主化への歩み）、ならず者国家イラン（脱アメリカ）、脱炭素社会へむけた取組（手法②） | □ |
| 第6回 | ヨーロッパA　地中海世界はどのように栄え滅んだのか、辺境地帯であった西欧にはどのような民族や文化が存在していたのか？ | ローマ～ビザンツ帝国の興亡、多様な民族（ケルト、ゲルマン、ラテン、スラブ）、巨石文化やバイキング、神話の世界（手法①） | □ |
| 第7回 | ヨーロッパB キリスト教vsイスラム教の戦いはヨーロッパに何をもたらしたのか？ | ローマ法王と東方教会、レコンキスタと十字軍、ルネッサンス、宗教革命、大航海時代、ハプスブルク帝国（手法②） | □ |
| 第8回 | ヨーロッパC なぜ西欧社会は先進国になれたのか？　帝国主義が世界に与えた影響は？ | 封建体制がもたらしたもの、奴隷貿易、フランス革命（自由と人権）、産業革命、ナポレオン戦争、アメリカ独立、マルクス主義、ロシア革命、（手法③） | □ |
| 第9回 | ヨーロッパD　何故二度も世界大戦を引き起こしたのか？　その反省はどう活かされているのか？ | 英独仏三国の争い、ソ連の誕生、NATO（冷戦構造）、EUの理念と構造、ユーロ誕生、ウクライナ問題（手法②） | □ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **第10回** | 前半：トゥキュディデスの罠とは何か<br>後半：学生発表 | 大国間の派遣争いが発生するメカニズムを考える<br>学生が主体的に設定した研究テーマの中間報告を行う（手法④） | □ |
| **第11回** | アフリカA　人類発祥の地アフリカとはどういう自然環境なのか？　ヨーロッパ各国の植民地支配とは？ | 地中海沿岸地方とサハラ砂漠以南の環境の違い、植民地時代以降のアフリカ史、主要な民族と文化を理解する(手法①) | □ |
| **第12回** | アフリカB　鉱物資源や観光資源が豊富なのに、アジアやラテンアメリカと比較して、アフリカ諸国はなぜ貧困から脱却できないのか？ | 資源大国、人種差別、独裁政権、民主化の遅れ、民族紛争など、アフリカの成長を妨げる問題点を理解する（手法②） | □ |
| **第13回** | アフリカC　なぜロシアと中国との親交が多いのか？人口爆発が予測されているアフリカは地球最後のフロンティアかそれとも世界に食料危機をもたらすのか？ | 新興国として成長する国、ロシアや中国との関係を深める国、人口急増しているナイジェリアなど、アフリカの今と未来を考える（手法③） | □ |
| **第14回** | 海洋国家vs大陸国家、先進国は何故大陸の両端のみで発展したのか？ | 「文明の生態史観」（梅棹忠夫著）に見るマクロ的な地政学の捉え方を理解する | □ |
| **第15回** | 学生発表 | 学生が主体的に設定した研究テーマの最終発表を行う（手法④） | □ |

**■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)**

毎回のテーマに関して参考文献やインターネット検索等で予習を行う（2時間程度）。講義終了後は、課題の取組を通して、講義資料の見直しや関連知識を自ら補うなど各自で復習し（2時間程度）、テーマに関する理解をさらに深め、自身の考え方を明確化する。

**■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)**

LMSを使用して課題の提出を受け付け、フィードバックを行います。提出された課題は、添削や採点を行い戻します。講義時間内での質問に加え、チャットでの質問も受け付けます。また、告知されたオフィスアワーを利用して研究室での面談も可能です。希望者はアポイント要請をしてください。

**■授業の到達目標と評価基準(Course goals)**

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|---|---|---|
| **主体性** | **◆ 2021国際ビジネスDP3** | 将来に向けて必要となる知識や技能を身につけ、グローバル化の影響を受けながら発展する国際社会が備えている、多様な文化・社会・経済の状況を踏まえ、ビジネス活動を通じて、広く世界の人々と協働し、共創的な活動をする社会性を身に付けている |

**■成績評価(Evaluation method)**

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験（in-class exam) | その他(Other) |
|---|---|---|---|---|
| | | | 100% | |

**授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)**

授業内試験とは出席点ではありません。毎回出席の上で、課題を期限内に提出しているかどうか、アクティブラーニングに主体的に取り組んでいるか、プレゼンテーション作業に積極的に取り組んでいるかなど、取組の内容を総合的に判断して採点します。

**■テキスト(Textbooks)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|
| 1 | テキストはありません。講師が必要に応じて用意します | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |

**■参考図書(references books)**

| No.(No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|---|---|---|

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 宇山卓栄、「民族で読み解く世界史」、日本実業出版社 | 978-4-534-05558-3 |
| 2 | 福島清彦、「ヨーロッパ型資本主義」、講談社現代新書 | 978-4-06-149628-X |
| 3 | 梅棹忠夫、「文明の生態史観」、中公文庫 | 978-4-12-203037-4 |
| 4 | 椿進、「超加速経済アフリカ」、東洋経済 | 978-4-492-21247-9 |
| 5 | 山内昌之、「イスラムと国際政治」、岩波新書 | 978-4-00-430583-7 |